

平成17年3月期決算説明会Q&A概要

【計測器事業に関するQ&A】

Q1: 05年度の計測器の見通しは、国内より海外（特に欧州）を伸ばすということか？

A1: その通り、海外を伸ばす計画である。計測器事業統轄本部長に米国人のマーク・エバンスが就いた。第3世代（3G）開発用のシグナリングテスト、PTS（プロトコルテストシステム）の欧州での伸びを期待している。欧州のモバイル関連開発部門のマネジメントを本社のワイヤレス事業部に統合するなど、グローバルな対応力の強化を図る。また、3Gのインフラ開発用計測器、IPテストも欧州に拡大しつつある。

Q2: 米国で3Gを始めるシンギュラーと関係の深い大手端末メーカーへのアプローチは？

A2: 3G端末開発では、3.5世代（HSDPA^{*1}）を含めてしっかり関係を持って進めている。また3G端末生産用テストの採用については評価を受けている段階である。

Q3: 中国の3Gライセンスの動向は？

A3: 3Gライセンスは、05年末までには出されると予想されているが、まだ不透明な点はある。当社としては、コンフォーマンステストシステムを納入したCATR（情報産業部電信研究院）との関係を強化している。

Q4: 05年度の計測器の売上の伸びに対して、営業利益の伸びが低いのでは？

A4: 携帯端末製造市場、特にアジアで価格低下圧力があり、それをリスクとして織り込んでいるためである。

Q5: WiMAX^{*2}、無線LANが今後3Gに匹敵する大きなビジネスチャンスになるか？

A5: ワイヤレスIP電話が、3G携帯電話と並んで拡大する可能性がある。携帯向けデジタル放送との融合や、IPネットワークの拡大などと合わせて、今後の大きなビジネスチャンスと見ている。

【計測器事業以外に関するQ&A】

Q6: 情報通信事業の05年度売上100億円の目標は厳しいのでは？

A6: この事業の収益性を改善するために、人と組織体制の改革を進めている。新製品のPureFlow（インターネットの帯域制限装置）事業で専門の営業部隊をこの4月に作った。映像監視システムで大手とのアライアンスを組むなど民需向け売上を増やす。05年度の営業利益は△5億円の計画だが、できるだけゼロに近づけるよう努力する。

【財務に関するQ&A】

Q7: 05年度の税金が少ないのはなぜ？

A7: 05年度から連結納税を行うが、03年3月期の大幅赤字分の繰越欠損が利用できることで、税金が少なくなる。

Q8: 中期経営計画の見直しは？

A8: 中期経営計画は、毎年、当期を含む3ヵ年分を作成するが、現在その作成プロセスの最終段階にある。6月の株主総会でトップ人事異動を予定していることもあり、7月の第1四半期決算説明会の時にあわせて、新執行体制のもとで中期経営計画を発表する予定である。

注) *1 HSDPA (High Speed Download Packet Access):データ通信を高速化した規格で、通信速度は第3世代方式の10倍以上となる。

*2 WiMAX (Worldwide Interoperability for Microwave access): IEEEで承認された固定無線通信の規格

以上